



# 地震に備えて ブロック塀の安全点検を！

平成30年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする最大震度6弱の地震により、多くの人的・建物被害が確認されました。お亡くなりになられた方の中に、ブロック塀の倒壊によって尊い命が失われたことは報道でもありましたが、いつ、どこで、どのような地震が発生するかは誰も予測ができません。自らの命を守り、大切な家族や地域の人びとの尊い命を守るため、是非一度、所有されるブロック塀の安全点検をおこないましょう。

### ③ たて筋

壁に作用する横力に抵抗する重要なものです。基礎から壁頂まで1本の鉄筋を曲げることなく配置します。また配置にあたって次の点に留意します。

①基礎には確実に定着する。②壁頂のよこ筋へ力ギ掛けする。

### ④ よこ筋

壁体の長さ方向を強固に一体化するもので、控え壁がある場合は、特に重要な役目をします。また、よこ筋は、通常80cm以下の間隔で配置します。

### ⑤ かさ木

塀本体へ雨水等が侵入するのを防ぎ、ブロックおよび鉄筋を保護します。かさ木は、壁体へ確実に固定します。かさ木には、浮きや欠落がよく見られます。注意しましょう。

### ⑥ 控え壁

塀の転倒に対する抵抗力を増すために、長さ3.4m以内毎に設けます。控え壁にも鉄筋を配置し、塀本体と強固に一体化させます。また、塀本体と同じ堅固な基礎を設け、反対側への転倒に対する抵抗力を確保します。

### ⑦ 透かしブロック

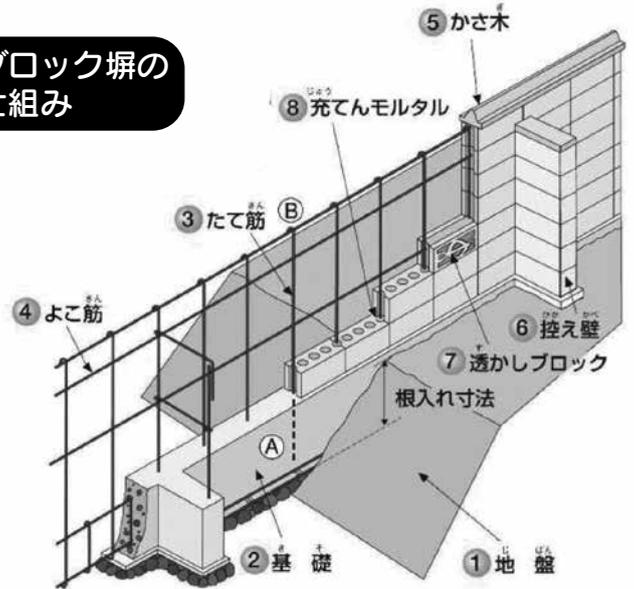
壁体の強度を低下させます。特に、連続した配置は、たて筋の適正な配置を困難にします。

### ⑧ 充てんモルタル

鉄筋とブロックとを一体化させるもので、強固な壁体を作るとともに、鉄筋を保護する役目を果たします。鉄筋の周辺部にモルタルが密実に充てんされないと、塀の強度低下や劣化を早めることとなります。

- 家の塀が安全かどうか分からないときは、専門家に相談しましょう！
  - 危険と分かったときは、すみやかに撤去や補強など安全対策をしましょう！
- ※そのままにしておくと、万一のときには賠償責任を問われることがあります。

## ブロック塀の 仕組み



### ① 地盤

塀全体を支え、基礎から一体となった塀の転倒に抵抗する役目を果たします。従って、大きな支える力(地耐力)が要求されます。特にスコップで容易に掘ることができるような軟弱地盤のところでは、大きくしっかりとした基礎を設けましょう。

### ② 基礎

鉄筋コンクリートで堅固に造り、塀と一体となって転倒しないように、40(30)cm以上地中に根入れします。さらに、抵抗力の大きい形式の基礎として、L形、T形および鋼管杭打ち基礎などがあります。また、高い擁壁や石積みの上に設けられている塀は、基礎に粘りがなく非常に危険です。安全対策を講じてください。( )：建築基準法

# 地震に備えてブロック塀の安全点検を!

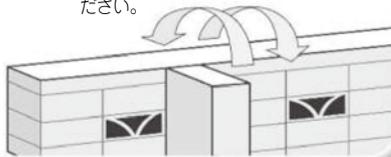
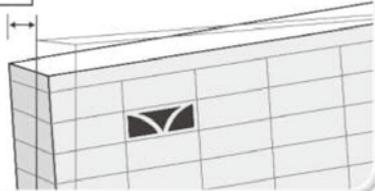
## ブロック塀の自己点検

みなさんの回りにあるブロック塀(\*)は、見かけはしっかりしていても安全性にかけるものがたくさんあります。危険なブロック塀をなくすよう、ブロック塀の自己点検をおこないましょう。  
\*コンクリートブロック内部に鉄筋が釣り合いよく配置され、モルタルやコンクリートで充填し補強された塀

## 該当する項目の□にチェックしてください。

なお、その他の組積造の塀（石材、レンガ、コンクリートブロック（鉄筋の補強のないもの）などをモルタルで積み重ねた塀）については★の項目の該当はありませんが、次のような制限があります。

- 高さは1.2m以下とすること
- 壁の厚さは高さの1/10以上とすること
- 控壁は長さ4m以内ごとに設けること
- 基礎の根入れ深さは20cm以上とすること

<input type="checkbox"/> <b>ぐらつきがある。</b> ※確認をする場合には、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押してください。 	<input type="checkbox"/> <b>傾きがある。</b> 
<input type="checkbox"/> <b>★高さが2mを超える。</b> (コンクリートブロックの厚さが15cm以上の場合には、2.2mを超える塀) ★コンクリートブロック1個の高さは約20cm 	<input type="checkbox"/> <b>コンクリートブロック部分に土圧がかかっている。</b> 
<input type="checkbox"/> <b>★基礎の根入れ(土に入っている部分)の深さが30cm未満である。</b> 	<input type="checkbox"/> <b>亀裂、目地わかれがある。</b> 
<input type="checkbox"/> <b>★すかしブロックが連続で使用されている。</b> 	<input type="checkbox"/> <b>★控壁がない、または控壁の間隔が3.4mを超える。</b> ★控壁は「壁面から塀の高さの1/5以上突出すること」 ★コンクリートブロック1個の長さは約40cm ※高さが1.2m以下の塀の場合には、控壁の規制はうけません。 

上記の項目に一つでも該当していれば、そのブロック塀は安全性に欠けると考えられますので、改善等を行う必要があります。

## 上の項目以外にも、このような場合には注意が必要です。

- ブロック塀の上に工作物がある
- ブロック塀の下に擁壁（土留め）がある
- ブロック塀を作ってから20年以上経過している


 **塀に鉄筋が入っていない。**  


### 専門家に相談しましょう



塀の中に直径9mm以上の鉄筋が、縦横とも80cm間隔以下で配筋されており、縦筋は壁頂部および基礎の横筋に、横筋は縦筋にそれぞれかぎ掛けされていますか？

問合せ先 愛知県建設部建築局住宅計画課防災まちづくりグループ ☎ 052-954-6549  
大口町まちづくり部 まちづくり推進室 ☎ 95-1614